

盛岡市内の主な遺跡と時代

| 時代 | 年代 | 西暦 | 主な出来事 | 市内の主な遺跡 | 今年度調査遺跡 | |
|-------|--------|--|--|--|---|-----------|
| 原始 | 旧石器時代 | | 大陸と地続き、大型の動物が生息する | 小石川遺跡（玉山区藪川） | | |
| | | 草創期 | 12,000年前 | 土器の使用がはじまる | 大新町遺跡（大新町） | |
| | 縄文時代 | 早期 | 8,000年前 | 定住化がすすむ | 館坂遺跡（前九年） 庄ヶ畑A遺跡（上米内） 大新町遺跡（大新町） 日戸遺跡（玉山区日戸） 新茶屋遺跡（山岸） 上八木田遺跡（新庄） 畑遺跡（上米内） | 新茶屋遺跡（山岸） |
| | | 前期 | 6,000年前 | 気候の温暖化、海面の上昇 漁労の発達、各地に大型住居が出現 | 新茶屋遺跡（山岸） | 新茶屋遺跡（山岸） |
| | 後期 | 中期 | 5,000年前 | 各地に大規模な縄文集落が発達 | 【県史跡】大館町遺跡（大新町） 柿ノ木平遺跡（浅岸） 繫V遺跡（繫） 上米内遺跡（上米内） 川目C遺跡（川目） 湯沢遺跡（湯沢） 大葛遺跡（浅岸） 落合遺跡（下米内） 菟内遺跡（繫） 上平遺跡（猪去） 手代森遺跡（手代森） 川目A遺跡（川目） 宇登遺跡（玉山区川又） | |
| | | 後期 | 4,000年前 | 気候の寒冷化 ストーンサークルがつくられる | | |
| | | 晩期 | 3,000年前 | 東日本で亀ヶ岡文化が栄える | | |
| 弥生・古墳 | 弥生時代 | 紀元前 2,000年前 | 水田耕作の開始 金属器の使用が始まる | 手代森遺跡（手代森） 繫VI遺跡（繫） 一本松遺跡（下米内） | | |
| | 古墳時代 | 紀元後 57 | 倭の奴国王が後漢の光武帝より印綬を賜る | | | |
| | | 239 | 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを出す ヤマト政権、統一進む | 永福寺山遺跡（下米内） 薬師社脇遺跡（浅岸） | | |
| | 飛鳥時代 | 1,400年前 | 593 聖徳太子が摂政となる 645 大化の改新 | 上田蝦夷森古墳群（黒石野） 竹鼻遺跡（上鹿妻） 太田蝦夷森古墳群（上太田） 百目木遺跡（三本柳） 台太郎遺跡（向中野） 釜崎遺跡（玉山区好摩） 西鹿渡遺跡（三本柳） | 台太郎遺跡（向中野） | |
| | 奈良時代 | 1,300年前 | 710 平城京に都をうつす 724 多賀城が築かれる | 永井古墳群（玉山区永井） 館・松ノ木遺跡（上太田） | | |
| 古代 | 平安時代 | 794 | 平安京に都をうつす 胆沢城(802)志波城(803)徳丹城(812)が築かれる | 【国史跡】志波城跡（下太田） 台太郎遺跡（向中野） 前野遺跡（浅岸） 乙部方八丁遺跡（乙部） 林崎遺跡（下太田） 芋田遺跡（玉山区芋田） 稲荷町遺跡（大館町・稲荷町） 内村遺跡（下飯岡） | 【国史跡】志波城跡（下太田） 台太郎遺跡（向中野） | |
| | 鎌倉時代 | 894 | 遣唐使が停止される | | | |
| | | 1,000年前 | 1016 藤原道長が摂政となる 1051 前九年の戦い（～1062年） 1083 後三年の戦い（～1087年） 1124 中尊寺金色堂完成 1189 奥州藤原氏滅亡 | | 町田遺跡（乙部） 細谷地遺跡（向中野） 大宮北遺跡（本宮） | |
| | | 800年前 | 1192 源頼朝が征夷大将軍となる 文永の役(1274) 弘安の役(1281) | 大宮遺跡（本宮） 堰根遺跡（浅岸） 台太郎遺跡（向中野） 落合遺跡（下米内） 里館遺跡（天昌寺町） 安倍館遺跡（安倍館町） 日戸館遺跡（玉山区日戸） 下田館遺跡（玉山区下田） 玉山館遺跡（玉山区玉山） | 里館遺跡（北天昌寺町） | |
| 中世・近世 | 室町時代 | 1336 南北朝に分かれ、対立する 1338 足利尊氏が征夷大将軍となる 1404 足利義満、明との貿易を開始する 1467 応仁の乱 | | | | |
| | 安土桃山時代 | 1588 南部信直が志和郡を攻略する 1590 豊田秀吉が天下を統一する | 【国史跡】盛岡城跡（内丸） 一里塚 南部家墓所（北山） 山蔭窯（茶畑）・花古窯（新庄） | 【国史跡】盛岡城跡（内丸） | | |
| | 江戸時代 | 1603 徳川家康が征夷大将軍となる 1641 鎖国の体制が固まる | | | | |
| 近代 | 明治時代 | 1853 アメリカの使節ペリーが浦賀に来る 1867 大政奉還 王政復古の号令 | | | | |



平成25年度に発掘調査した遺跡

第31回埋蔵文化財調査資料展

盛岡を発掘する

平成25年度調査速報

新茶屋遺跡 (しんちゃいせき) 第5次調査 山岸

縄文時代早期から前期を中心とする遺跡で、丘陵地の中の沢地形に面した緩い斜面に立地しています。

今回の調査では、縄文時代早期後半から前期前葉の遺物包含層(土器、石器等が含まれている土層)が確認され、早期後半の貝殻文土器や早期末葉から前期初頭の羽状縄文系の土器、早期後半から前期前葉の石器が出土しました。

この時代の集落部分はまだ確認されていませんが、遺跡の地形から、調査地点より少し高い土地に集落が形成されていたと推定されます。



第5次調査 出土遺物

台太郎遺跡 (だいたろういせき) 第77～80次調査 向中野

これまでに奈良・平安時代の竪穴建物跡700棟以上が確認され、盛岡周辺で最大規模の古代集落遺跡です。

今年度の調査では奈良時代の竪穴建物跡4棟、平安時代の竪穴建物跡30棟、堀跡などが確認されました。写真は第77次調査の平安時代竪穴建物跡で、カマドの煙道が3方向確認され、カマドの位置を変えながら生活していたことがわかります。特徴的な土器として、土師器(はじき)の把手付土器(とってつきどき)が出土しており、北の擦文(さつもん)文化地域との交流がうかがえます。第78次調査の平安時代の堀跡からは土師器球胴甕(きゅうどうがめ)2個体が出土しました。



第77次調査区 RA669竪穴建物跡 3方向の煙道

平成26年2月11日(火)～5月18日(日)

盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13-1
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

◆平成25年度調査成果報告会◆

■日時 平成26年3月2日(日)13:30～15:30

■会場 盛岡市遺跡の学び館 研修室(定員80名)

※入場無料、直接会場へどうぞ。

町田遺跡 (まちだいせき)

第19次調査 乙部

乙部の段丘上の遺跡で、縄文時代後期ごろの遺物包含層のほか、平安時代の集落が確認されています。

今回の調査では縄文時代後期の土器のほか、平安時代の竪穴建物跡2棟、竪穴跡1棟と平安時代の遺物包含層を確認しました。土師器、須恵器(すえき)、あかやき土器、土鍾(どすい:網のオモリ)、鉄製の鍬(やじり)、刀子(とうす:小刀)や鉄滓(てっさい:鉄のカス)が出土しています。平安時代の竪穴建物の周辺で、鉄製品の生産や修繕などの作業が行われていたと考えられます。



第19次調査 出土遺物

細谷地遺跡 (ほそやちいせき)

第33次調査 向中野

台太郎遺跡南東側にある、奈良・平安時代の集落遺跡です。今回の調査区は遺跡南部の昨年度調査区よりも南にあり、集落範囲が南方に拡大することがわかりました。平安時代の竪穴建物跡7棟、土坑12基、溝跡2条、竪穴跡7基が確認されました。竪穴建物跡からは平安時代の土師器杯・甕・多嘴瓶(たしへい)、あかやき土器の多嘴瓶が出土しています。多嘴瓶は神仏に花を供える器で、市内では志波城跡東側の林崎遺跡から出土しています。他地域では宗教施設や官衙(かんが)などの遺跡で出土しており、当遺跡近くにもこのような施設の跡が存在する可能性があります。



第33次調査 RA226竪穴建物跡 土器出土状況

大宮北遺跡 (おおみやきたいせき)

第17次調査 本宮

志波城跡東方にある平安時代中期(10世紀中葉～後葉)を中心とする遺跡で、掘立柱建物跡や土坑、大溝が確認されています。今回の調査でも掘立柱建物跡2棟、土坑10基、溝跡3条、土器廃棄遺構1基を確認しました。土器廃棄遺構から大量に出土したあかやき土器は高台付杯や小皿が主体で、細かな破片が多いことが特徴です。大型の掘立柱建物跡は官衙的建物で、土器を大量に消費する儀礼行為が盛んであったことがうかがわれます。北西側にある林崎遺跡同様に、志波城・徳丹城の廃止後新たに出現した集落で、行政機能を中核とした集落であったと考えられます。



第17次調査 RB010掘立柱建物跡

里館遺跡 (さだていせき)

第58次調査 北天昌寺町

この遺跡では平安時代の竪穴建物跡、12～13世紀の掘立柱建物跡・竪穴建物跡のほか、14～16世紀の中世城館跡などが確認されています。今回の調査では縄文時代の陥し穴のほか、12～13世紀前半を中心に掘立柱建物跡10棟、柵跡1列、柱列跡18列、竪穴建物跡1棟、土坑9基、溝跡6条が確認されました。中央部の2条の溝の間には土塁(どるい)が存在した可能性があり、これに取り付く櫓状(やぐらじょう)の建物も存在します。この溝や周辺遺構からは12世紀のかわらけ、12～13世紀の瓷器系埴輪(しきけいこねばち)の破片が出土しており、遺構の多くは城館跡の外郭施設と推定されます。



第58次調査区 全景

史跡 志波城跡 (しせきしわじょうあと)

第108次調査 中太田

志波城は古代陸奥国最北端・最大規模の城柵です。外郭は840m四方の築地塙(ついじべい:土をつき固めて造った土塙)と、928m四方の土塁を伴う外大溝(そとおみぞ)により二重に区画され、城内中央には150m四方を築地塙で囲んだ政庁がありました。

今回は外郭西辺中央部の調査を行い、築地基壇(きだん)の積み土、築地外溝跡、外大溝跡を調査しました。外溝、外大溝からは西暦1000年前後とみられる洪水層や915年降下の十和田a(灰白色)火山灰が確認され、当時の災害痕跡と考えられます。

なお、外郭南辺に復元されているような築地塙をまたぐ形式の櫓の跡は、今回も発見できませんでした。



第108次調査区 外郭西辺築地外溝跡

史跡 盛岡城跡 (しせきもりおかじょうあと)

第32次調査 内丸

江戸時代の盛岡藩主南部氏の居城跡で、維新後の明治7年(1874)に建物は取り壊されましたが、往時をしのばせる雄大な石垣が残り、昭和12年(1937)に国史跡に指定されています。

今年度は三ノ丸北西部の石垣解体修復工事のための事前調査を4箇所行いました。三ノ丸北面の石垣には宝永2年(1705)に積み直された際の銘文が残っていますが、三ノ丸上面の断面調査では宝永2年の石垣の裏込石と盛土層、築城時の石垣に伴う盛土層を確認しました。また石垣下の調査では石垣根石の深さや根固めの状態などを確認できました。



第32次調査区 全景

特別速報展

平成25年度沿岸部発掘調査支援

大船渡市

当市が沿岸部に派遣している職員が担当した遺跡の発掘調査資料の一部を展示しています。

田代遺跡 (たしろいせき)

第4次調査 三陸町字仲崎浜

越喜来湾(おきらいわん)北側の崎浜漁港を見おろす、南東向きの緩斜面に立地します。これまでの調査で縄文時代前期初頭から中期末葉にかけての集落跡が確認され、竪穴建物跡や貯蔵穴などの土坑が数多く確認されています。

今回の調査では縄文時代中期の竪穴建物跡9棟、中期中葉から後葉にかけての濃密な遺物包含層を確認しました。特筆されるのは、縄文時代中期前葉の竪穴建物跡から、東北地方北部から北海道地域にかけての円筒上層式土器が、この地方の大木式土器とともに出土したことで、活発で広域的な文化交流がうかがわれます。



第4次調査区

小出館遺跡 (こいでだていせき)

第1次調査 三陸町字小出

越喜来湾を望む尾根の先端に築かれた山城跡で、越喜来小学校移転のため発掘調査を実施しました。山頂を二重の空堀(くうごり)が取り囲み、背後の尾根を断ち切る空堀は深さが10mほどある巨大な空堀です。内部は雛壇(ひなだん)状の地形に造成され、頂上近くの広い平場からはひさしのある大型掘立柱建物跡や複数の建物跡が確認されました。出土遺物には中国産の染付皿、瀬戸・美濃の灰釉(かいゆう)・鉄釉(てつゆう)陶器の皿や碗のほか、銅製の小形槍、鉄製品の火打鉄(ひうちがね)や芋引鉄(おひきがね)等が出土しました。山城の構造や出土遺物から、戦国時代後期の16世紀を中心とした山城であることがわかりました。



遺跡 遠景

建物跡